

元日や

今日のいのちに

遇う不思議

(木村無相)

龍谷大学非常勤講師
小池秀章 こいけひであき

「あけまして おめでとうございます」

新年は、いつもこの挨拶が始まります。子どもの頃は、「新年だからといって、何がめでたいのだろう。昨日と何も変わっていないのに」と思ったものでした。

96歳で亡くなった祖母は、80歳を過ぎた頃から、「もう来年のお正月は迎えられないかもしれない。今年が最後のお正月になるかもしれない」と、毎年お正月になると言っていました。年をとるとそんな気持ちになるのかなあと、他人事としてしか受け取れない私がいきました。私自身も来年のお正月に生きている保証は、どこにもないにもかかわらず…。

私を含め多くの人は、お正月を迎えられたことを当たり前としか思っていないでしょう。木村無相さんは、

「元日や 今日のいのちに 遇う不思議」

という言葉（俳句）を残されています。元日という今日、いのちを恵まれたということが、当たり前のことではなく、不思議なことだということです。「会う」ではなく「遇う」という漢字が使われているのは、「遇う」には、「たまたま偶然であう」という意味があるからです。つまり、今日、いのちを恵まれたのは、当たり前のことではなく、たまたま偶然なことであり、不思議なこと、有難いことだということです。

お正月には、毎年この言葉を思い出します。

合掌